

# 遊びの重要性、社会に発信しよう

全国国公立幼稚園・こども園長会（会長 髙橋慶子・東京都目黒区立みどりがおかこども園園長）などは7月26、27の両日、札幌市で第71回国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会北海道大会を開催した。研究主題は「子どもの未来への架け橋となる幼児教育、今こそ、遊びの重要性の力強い発信」。研究発表、五つの分科会などを実施し、参加者が「遊び」の重要性を再認識するとともに、その価値を広く社会に発信することなどを考え、学び合った。

## 全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会北海道大会



「子どもの未来への架け橋となる幼児教育、今こそ、遊びの重要性の力強い発信」を主題に開かれた北海道大会の様子

### 研究発表

研究発表は、①園経営②教育内容③教育課題の3テーマで実施。園経営は長崎県吉野市立鯨伏幼稚園、教育内容は茨城県東海村立村松幼稚園と同村立石神幼稚園、教育課題は鳥取市立河原幼稚園が、それぞれの取り組みを発表した。

#### 長崎・吉野市立鯨伏幼稚園

## 小学校との円滑な接続へ 研修や子どもの交流を工夫

園経営について発表した長崎県吉野市立鯨伏幼稚園では、「架け橋期の円滑な接続を意識した園経営」を進めたい。進んで言葉で伝え合いを行う「幼児の育成」をテーマに研究を進めている。

具体的内容や方法としては、①幼稚園・小学校における研修・情報発信②それぞれのねらいを明確にし、

た交流③子どもたちが自身が成長を実感できる振り返り④地域の特性を生かした交流の四つを挙げている。このうち「幼稚園・小学校における研修・情報発信」では、小学校の校内研修で幼児教育の理解についての時間を確保。「幼児期の終わりまでに育ってほしい児童の交流がそれぞれの学びの姿」への理解を深め、スタートカリキュラムの重要性も再確認した。幼稚園教職員の研修で、互いのねらいを確認し、実践と振り返りを行っている。

#### 茨城・東海村立村松幼稚園、石神幼稚園

## 人とつながることが 好きな子どもを育む

茨城県東海村には、教育内容を工夫して発表した村立立りななかった。保育者が保護者の2園の公立幼稚園が、今回の研究では、各園の特徴を生かしながら「人とつながることが好きになる」幼児の育成に取り組んだ。

村松幼稚園は、幼児主体の保育のプロセスを大切にしながら、人とつながることが好きになる幼児の育成を図っている。発表した実践事例は「子どもと大人みんなで楽しむ夏祭り」。ステーションで踊るのが「つながる竹ゴロスイッチ」。砂場で水を流して遊ぶ5歳児たちだが、イメ

#### 鳥取市立河原幼稚園

## どんな姿が「主体的」か 記録や見取り基に検討

1ツ通りに流れない。その後、地域のSさんの家のある竹で作られた遊び場で遊んだことで、解決の糸口を見つけた。

加工済み竹を園に持ち帰ると、竹を使って立体的な水路を作って水を流すところを繰り返すようにするなど、子どもたちは友達とアイデアを出し合いながら遊びを発展させていった。

教育課題について発表した鳥取市立河原幼稚園は、「主体的に遊ぶ子どもを育てる」を主題として、環境の構成や保育者の関わりについて研究、実践している。研究の視点は「幼児のどのような姿を『主体的』と捉えるのか」「幼児の活動の記録や見取り基に検討」を挙げています。

「幼児のどのような姿を『主体的』と捉えるか」については、一人の幼児に焦点を当てて遊びの中での姿を記録するとともに、複数の保育者の見取りを確認し、その子どもにとっての『主体的』な姿とは、どのような姿なのかを考えた。こうした取り組みを重ねた中から、保育者たちは「どの子どもにも、その子なりの主体的な姿がある」と感じることができた。